



新高退通信

No.138

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com

新潟高教組

発行所 / 新潟県高等学校教職員組合 / 新潟市中央区川岸町2-11 / TEL (265) 4151 / FAX (231) 1036 / 1部10円 (購読料は組合費に包含)

発行人 吉田 裕史

2020年12月1日
号外

新潟県高等学校
退職者の会

事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
(高校会館内)

退職者の会専用電話
025-265-1110

講演「待ったなし！ 気候危機」を聞く

事務局・石野公久



環境活動家グレタ・トゥーンベリさん

「Skolstrejk för klimatet」は、「気候のための学校ストライキ」

まだまだ続くコロナ待機、早く皆さんと活動したい

事務局

昨年12月に開催された国連気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)に参加したNGO「気候ネットワーク」の伊与田昌慶主任研究員による「待ったなし！気候危機」COP25@新潟の講演会に参加した。

安倍政治を継承する菅内閣が発足し、日本学術会議が推薦した新会員105人のうち、6人を任命しないという前代未聞の大弾圧が進行している現在、多くの示唆を与えられた。今回は、内容が膨大だがその概要を紹介する。

伊与田さんは、2011年より「気候ネットワーク」に勤務し、2007年からはCOPに毎年参加し交渉をフォローしている。著書に『地域資源を活かす温暖化対策 自立する地域をめざして』(共著)などがある。

COP25とは

COP25は、平均気温の上昇を産業革命前に比べて2℃未満(できれば1.5℃)に抑える長期目標を持つ「パリ協定」開始前年の昨年(2019年)の12月、スペインのマドリッドで開催された。「未来のための金曜日」のスウェーデンの16歳、

グレタ・トゥーンベリさんが「気候危機に立ち向かうよりも、大人たちは抜け穴作りに熱心だ」と若者の声を発し、また、日本が期間中に温暖化対策に消極的な国に与える不名誉な「化石賞」を2回も受賞した会議だった。

パリ協定について

パリ協定は、「完全な脱炭素化」と「エネルギー部門の排出を2050年頃に実質ゼロにする」を意味する温暖化対策のルール。

- ①めざすは1.5℃未満(対策なしだと4℃上昇)
- ②化石燃料の時代を終わらせる。
- ③自然エネルギー100%の時代が始まる。
- ④お金の流れをグリーンにする対策を強化し続ける。
- ⑤目標引下げ禁止が5つの重点ポイント。

とりわけ、運動の世界の潮流は脱石炭と自然エネルギー100%で、石炭火力発電は、膨大なCO2を排出し、その排出量は天然ガス火力発電の約2倍。日本が推進する高効率石炭発電所でも再生可能エネルギーは勿論、天然ガス火力にすら全くかなわない。化石燃料の代わりに省エネを徹底した上で、どうしても必要なエネルギーは、

太陽光、風力など、CO₂をほとんど出さない自然エネルギーでまかなう。つまり、自然エネルギー100%の時代にシフトする。実際、「自然エネルギー100%は実現可能」という研究が続々と発表され、価格も化石燃料より安くなりつつある。

CO₂25で確認されたことなど

- ・「気候変動」と呼ぶのはやめよう。「気候非常事態」と呼ぶのがふさわしい。(CO₂25会議場の正面に掲げられたメッセージ)
- ・非常事態においては行動を変えなければならない。(グレッタ・トゥーンベリさん)
- ・温室効果ガス排出削減目標の引き上げや、CO₂を大量に出す石炭からの脱却を各国に求める。(アントニオ・グレーテス国連事務総長)

・CO₂25での重要議論／公正な移行で2℃未満をめざすと2400万人の雇用増加、600万人の雇用減少となる。雇用純増は1800万人(ILO国際労働機関)

伊与田さんは「CO₂25は残念な結果(パリ協定第6条のいわゆる市場メカニズムに関するルール

をどうするかが未定)に終わったが、科学や人々の要求はこれまで以上に明確になった。パリ協定の本確実施を加速できるか否かは市民にかかっている。」と話した。

石炭火力に傾注する日本に対し

- ・日本に脱石炭・カーボンプライシング等を勧告／2019年11月国連環境計画のレポート
- ・2018年の気候災害被害、日本が世界第1位／2019年12月4日「グローバル気候リスクインデックス」発表
- ・目標引き上げと脱石炭への方針転換を求める／2019年12月5日国際NGOからCO₂25日本政府代表団への申し入れ
- ・CO₂25会場前で日本の石炭火力発電輸出に批判／日本官民が支援する石炭火力発電所計画がある途上国のNGO
- ・安倍総理に対して、2020年のうちに排出削減目標の引き上げ、脱石炭を求める書簡／2019年12月4日、マーシャル諸島のハイネ大統領
- ・日本の石炭火力発電は2027年頃がピークに／既存の石炭発電所+新增設計画

・日本はG7第1位の石炭事業支援国／G20の石炭・再エネ事業の海外向け資金支援規模(2013~2016年)において日本は再エネも支援はしているが、石炭支援が悪目立ちする。

・石炭火力発電に多額の融資をしている大手銀行への批判／CO₂25で調査、なんと日本の銀行が世界TOP3を独占(みずほFG、三菱UFJG、三井住友)

2019年12月21日閣僚級会合での小泉環境大臣スピーチ

1. 「石炭中毒」(アントニオ・グテーレス国連事務総長)との批判は日本向けのものだと認識
2. 石炭推進政策をやめる具体的な意思表明はなし(国内も海外向けも)
3. 2020年排出削減目標の引き上げには言及せず
4. 日本の自治体の取り組みをアピール

伊与田さんは、「この場で国際的な批判を正面から受け止める発言をした大臣がいた記憶はない」とするが前記のように脱石炭の具体的な見通しを示すことなく、「政府内の調整に努力する」と述べるにとどまった。と指摘している。

気候ネットワークがめざす5つのミッション

- 市民の力で、気候変動を止めるため、「人類の生存を脅かす気候変動を防ぎ、持続可能な地球社会を実現することをめざす。そのために次の5つのミッションをもち、活動を続けていく」としている。
1. 世界の温室効果ガスを実質ゼロにする国際的なしくみをつくる。
 2. 日本での持続可能な脱炭素社会・経済に向けたしくみをつくる。
 3. 化石燃料や原子力に依存しないエネルギーシステムに変える。
 4. 市民のネットワークと協働による脱炭素地域づくりを進める。
 5. 情報公開と市民参加による気候政策決定プロセスをつくる。

講演を聞いて

核兵器禁止条約が50カ国の批准に達し、来年の1月に発効する。世界中から「これは広島・長崎の被爆者に贈られるものだ」との声の一方、唯一の被爆国の日本政府は被爆者や多くの人々の声を無視し、その責任放棄を続けている。CO₂25や公害闘争等と通底する全人類の願いに背を向けることをいつまで続けるのだろうか。市民のチカラがためされる。

退職後10年の小づる日記

カレンダーを見るな

上越支部 藤田雅子(10)



キッチン
の壁に「毎日
を寿ぎ、
カレンダー
を見るな」

という意味の英語のことわざが張り付けてある。私の生活信条にしている。

退職前1年間は、退職後の6月から3か月間世界1周旅行する計画で忙しく、寂しさは全くなかった。当時はISも新型コロナウイルスも無かった。

3か月家を空ける準備が整い、明日3か月分の旅行荷物を送り出すという日の夕方、親族から連絡が入り3歳上の姉の重篤な病名を聞いた。すべてキャンセルし、それから3年間姉が天に召されるまで親族と共に病と闘った。そして、実家を断捨離、整理して今はレン

タルのマンションに住んでいる。そこまでで、5、6年経った。65

歳からの老齢年金は賃貸料に消え、学習ボランティアや、学習塾でのアルバイトをして過ごしていたが、昨年末、地方新聞で産休代理の教員がいけない、と講師登録を呼びかける記事を読み、教育事務所に打診すると、高齢でも歓迎ですと言ってもらえた。私達の年代は3年毎の免許書き換えをしなくても良いのだそうだ。登録してしばらくしたら、1日3時間の講師の要請があった。9年ぶりに教壇に立った。

現場は、昔と比べ、緻密で丁寧な教育計画がなされていた。「昔は、テスト期間同僚と体育館で卓球して遊んでいたものだ」教務室の隣の方に話すと、「私だって昔はそうだった」と、仰った。このところ労働環境が厳しくなっているのだろう。教特法もそのまま、教員はボランティアの残業を行っ

ていた。

幸い、講師期間中には、ひざの痛みが出なかった。精神力で乗り切ったのだろうか、何とか4か月務めた。私達の年代は、90歳で50%が生きているという。

年齢を気にせず、生かされていることに感謝しつつ、これからも職を求め生活していきたいと思っている。

旅行三昧の夢叶わず

上越支部 長谷川英輝(10)



2011年3月24日(木)から26日(土)に鹿児島ア

リーナで開催される全国高等学校空手道選抜大会への生徒引率から帰ってきて、数日後に退職となる予定であった。しかし、3月11日に発生した東日本大震災で急遽中

止になった。毎日、朝6時30分すぎに家を出、夕方8時に帰り、土曜日、日曜日は部活指導や大会、練習試合引率の生活であった。それが4月1日からは学校へ行かなくてよいと思うとうれしくなり、

朝は少し明るくなった頃からウォーキングやランニングに出かけた。鹿児島へ行けなかった無念の気持ちもあって、退職後は秋田、岩手、青森など今まで行ったことのないところを旅行した。しかし自由に行けなかったのは束の間で、同年の秋に孫が誕生したらイクジイになってしまった。妻からは講師に来てくれと頼まれてもすべてお断りするように言われ、保育園から『熱がある』と連絡が来れば迎えに行く生活になった。孫を午前中に病院へ連れて行き、熱が下がらないと午後も点滴をしに再び連れて行くこともあった。

講師の依頼の話は全てお断りしていたものだから2、3年後には連絡も来なくなった。また、町内会の役員もお断りしてきた。ただ、学生時代に打ち込んだ空手道部が、長い間部員ゼロで休部状態になっていて、これを復活させるために

将来の大学生への指導をしている。また、高体連の空手道大会の審判員が足りないとのこと、毎年春と秋の地区大会から県大会までお手伝いに出ている。しかし今回のコロナ禍で部活動や全国大会が停止や中止になる中、お手伝いは今年から辞退させて頂いている。

今は毎日、ウォーキングと杖道の練習、そして大学空手道部復活に向けた指導をしている。退職時に夢に描いていた旅行三昧とはいかないが、健康に日々を過ごしている。

退職して10年

長岡支部 水落裕子(10)



在職中は、小千谷高校、堀之内高校、加茂高校と勤務し、長

岡向陵高校を最後に退職致しました。いずれも居住地の見附から通勤いたしました。

退職後、在職中にやり残したことをやりたいと思いい、できる限り絵の制作(油絵)に専念して参り

ました。この中で、地域の方々と交流を大切にしたいと思いい、見附市内の絵画サークルに退職2年目に入会致しました。又この年に、県内の絵画団体に入会し、県内の方々との交流で大きな視野を得ることができました。東京への公募展の出品もこの時から遅きながらはじまり、出品7回、今年はコロナで公募なし。絵画団体の研究会での積み重ねが制作時の支えとなり、退職して2年目からの8年間、目標を持って制作して来ることができました。

年々、歳を取って行く中で、以前と同じようにはいかず、体力・気力を養っていかねければと言いう思いです。

絵の題材の出発点は、南魚沼のまだ雪のある待春の風景で、魚野川河岸と遠方に雪をいだく山々です。今年には早春に少し変えて、遠方の連山に雪を残しつつも、雪消えの河岸の新緑と桜の開花を入れてみました。今までの白一色の世界に色彩を入れたのも、歳の変化かと思えます。

今まではやりたいことに専念できた10年でしたが、これからは健

康や家族や、他の処々の事を考えながら制作以外の大切な事をしっかり見すえて、心穏やかに、日々をすごしたいと思っております。

コロナ騒ぎの毎日の生活 ソーシャルディスタンス

新津支部 桐生健吉(10)



昨年末に武漢で発生した新型コロナウイルスが、今年

1月に日本上陸して以来ずっとコロナ騒ぎが続いています。飛沫感染と接触感染を防ぐため、マスクの着用、手洗いの励行、三密の回避は耳にたこができるほど聞かされています。マスクの着用を怠るとケンカ騒ぎになったり、手洗いの出来にくい店等では至る所に消毒用アルコールが設置されています。三密とは密閉・密集・密接のことらしいのですが、正確を期するため、医者への解説を見てみました。

密閉とは窓がなかったり換気ができなかつたりする場所とありま

した。

密集とは、人がたくさん集ったり、少人数でも近い距離で集ること前者はテーマパークや大型商業施設、スーパー、学校、電車などで、後者はライブハウスや喫茶店、レストラン等とありました。その対策として十分な手を伸ばしても届かない距離、真向かいに座らず互い違いに座る、横並びで座るなどです。

密接とは互いに手が届く距離で会話や発声、運動などすることを言うと有りました。職場、飲食店、公共交通機関など、どこでもあり得ることです。

ソーシャルディスタンスって何?日本語では社会的距離とありますが2m位らしいのです。

70歳になった私は、できるだけ外出せず、やむを得ないときはマスクを忘れず、運動不足解消のため週2回のランニングに励んでいます。

あつぎから10年

上越支部 南保善久(10)



退職後は
両親の見守
りと思つて
いたら、退
職まで残り

4ヶ月の12月2日に母、明けて1月6日に父が逝去し、茫然とし腑抜けになってしまったのがつい先日のような気がします。

その3月に東日本大震災があり、両親の死と震災の影響で半年ほどは精神的にかなりのダメージがありました。それを救ってくれたのは約300坪の畑。

荒らしておくとな隣に迷惑をかけるので意地になって、紫外線のシャワーを浴びながら春から秋まで約30種の野菜を作りまくっています。

ただ、野菜達は生徒達のように語り掛けても返事をしてくれないのが不満ですが、コロナ禍どこ吹く風で現在に至っています。

そして現在は20時就寝、4時起床のパターンで野菜作り+週4日(半日)はテクノスクールの委託

で求職中の人達にEXCELを教えています。

あつという間の10年でしたが、これからの10年はもつと「あつという間」で80才・・・いつまでこの状況を維持できるのか？さてどうなることやら・・・？

10年という一瞬の時間が過ぎて

上越支部 松井一雄(10)



自分で気がつかないまま、定年退職から10年が過ぎようとしています。再任用で1年間がありますので、実質9年になります。

思い返すと、退職間近の3月に東日本大震災がありました。私の勤務校では、高校入試の合格発表直前で、大きな揺れに発表を見るため集まった受験生等の関係者が騒然としました。ほんの少し前の出来事のように思い出されます。

退職後は、体力・知力の衰えを防ぐために、何かしなければと考

えました。幸に工業・機械系を担当していた関係から、テクノスクールから声がかかり時間講師を務めることになりました。年間75日余りで午前中だけです。就職のために資格取得を目指している生徒。再就職のために技能取得を目指している生徒。課程によって年齢に幅があり、様々です。私も多くの生徒達と一緒にいることで、日々の活力をもらっている感じがしています。目標に向かって頑張る生徒の姿を見ると、現職の頃を思い出し、少し熱い思いを感じるがあります。

それ以外の時間は、いろいろで片付けています。また、時間を作ってナンプレで頭のトレーニングをしたり、春や初夏の頃は2坪余りの畑に野菜の苗を植え、収穫を楽しんでいます。

ここに来て、親を卒業することになりました。子どもたちの結婚・孫の誕生とあつたからです。妻と話をしています。「ゆっくりとした二人の時間が、やっと出来たね。」

ただ、世間はコロナ禍となり大

変騒がしくなっています。思い返せば、退職から今日までの間には多くの出来事があったと思います。しかし、一瞬の時間で過ぎ去ってしまいました。詳細に思い出すことが困難になってきているようにも感じるこの頃です。まずは健康第一に努めて、これからの生活を過ごしていきたいと思います。

雑感

新発田村上支部 遠藤正俊(10)



退職の翌年から3年間最終勤務校で講師を務めました。

講師を辞めてから、晴れの日には庭の芝生の手入れ、雨の日には家の掃除や読書などを行っています。

4年前に家族が増えました。孫ではなく犬です。ペットシヨップで一匹惚れました。犬腫はキャバリアです。子育てと同じで病気をしたりケガをしたり戸惑うこともありました。今では犬も我が家での生活に慣れ、私たちにとって大切な存在になっています。

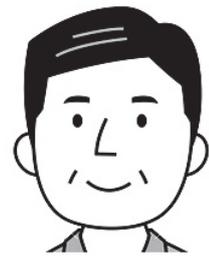
族を和ませ癒やしてくれます。散歩に連れて行くと道で出会う人たちが声をかけてくれ、お互いに笑顔になります。様々な動物や植物に対する認識も変わりました。動物に関するテレビ番組もよく見るようになりました。もうすぐ60代を終えようとする私にとっては大きな変化です。

私にとってこの10年間はとても充実したものでした。妻や息子と映画を観に行ったり絵画展や展示会などにも行きました。映画は年間10本位の時もありました。家には庭があり、草や木がいち早く春夏秋冬の訪れを教えてください。眺めていると素晴らしい時を過ごしているのだと実感します。

本棚には、まだ読んでない本が何冊もあります。どのくらい読めるのかわかりませんが頑張っているかと思っています。旅行など、したいことが沢山あります。これから一日一日を大切に、より充実した日々を過ごしたいと思っています。

今思うことー退職後10年目

新発田村上支部 小林達朗(09)



定年退職後10年が過ぎました。本当に早いものです。

70歳となりました。俗に準備・学習期間20年、仕事活動40年、年金・老後15年が男性の平均とすればあと5年は充実としたいものがある。

しかし一昨年末に「2人に1人の病気」となり、月一回の定期診査を受けながら活動をセーブして体力回復に励んできました。お陰様でその後の体調は前に戻りつつあります。この調子で残された時間を活用していきたいものです。

ふり返ってみると在職中は仕事中心になり過ぎたようです。山登り(登山ではなく)、囲碁・麻雀・ゴルフ・スキーなどがやりたかったなと考えています。

それでもこの10年間で孫たちも4人となり、その世話で大変いそがしい日々です。成長の跡は本当に早いものと感じています。

また退職者の会としても、新発田支部の減少化は県の平均より早く到来しているような気がします。新加入者も少なく大変な状況となっております。

大変といえば安倍政権が菅政権となり、相変わらず私たちの生活は苦しくなりそうです。新型コロナウイルスもどこまで続くのか、年末を越せない人々(私も含め)が大勢予想されるとマスコミが報じています。早くこれまでの生活のリズムに戻ってほしいと思います。残された時間は少ないと思いますがゆっくり味わっていくことを希望しながら退職10年の思いを記させてもらいました。

語学の楽しみ

長岡支部 吉岡雅武(10)



フランス語の本を毎日1ページ読んでいます。子供向けの

本なのだが、頭の体操、ほけ防止のため。フランス語は高校のころから。学校帰りに覚張書店で、表

紙がオレンジ色のコンサイス仏和辞典を買って求めた。参考書は長岡書房の2階で購入。発音はNHKラジオのフランス語講座を聴いて覚えた。講師は朝倉季雄先生。東京に行く用があるときには、丸善や紀伊國屋書店に寄って、フランス語の詩集など買って来た。ランボーとか、アンドレ・ブルトンとか、プレヴェールとか。

ドイツ語、イタリア語、ロシア語、韓国語、中国語にも手を出してみたが、ドイツ語以外あまりモノにはならなかった。中国語と韓国語は手上げ。ヨーロッパ語族の言葉とは発想が全く違っている。中国語は麻雀牌を並べていくような言葉で、牌同士がどうしてびつたりくつつくのか、わからない。不思議な言葉だ。

どの言葉でも、だんだん覚えていくと、蟻の行列のような文字列が、意味の塊を作って浮かび上がってくる時がある。それが何とも言えない醍醐味。

日本の古典文学にも手を出してみた。外国語学習と同じやり方で橋本治とか田辺聖子とか大岡信を手引きにして、『更科日記』、『土

佐日記』、『伊勢物語』、『万葉集』、『小倉百人一首』と拾い読みしていくと、高校の頃の古文の授業が甦ってくる。担任の池上先生の声まで聞こえてくる。古文を読んでいると、高校時代の記憶が古文の世界とかさなってくるから妙だ。

今の状況を感じ

三条・加茂支部 知野敬慈 (09)



退職して、もう10年が過ぎてしまいました。この間、数年

年前に熱が出て一回だけ医者にかかりましたが、あとは至って健康です。ほとんど運動をしないのですが、やりたいようにしていること、低山・里山も含めれば、年20回位の山登りをしていること、ささやかながら自宅で塾(週10時間)をやっている、あまりふしだらな生活にはならず、中・高生と接していて若い気持ちでいられること、田舎生活で静かで空気がいいこと、孫と遊んでいることなどがいいのかと思っています。

3年ほど前から地域の公職を減らし、ここ1、2年は本ばかり読んでいます。読んだあとからすぐ忘れるので、なかなか身につくきません。人生で一番勉強しているのではと思うほどです。(今までがしなかっただけなのですが)世の中には困っている人、苦しんでいる人がたくさんいるのに、自分だけ好きなことをしているのか、という思いもあります。今の状況を感じ、楽しんでいきます。

退職者の会で10年

新潟支部 内山正知 (10)



大学卒業後、いすゞ自動車で技術員として7年間勤務

し、ようやく自分で企画して仕事ができる立場になった頃、親の求めに応じて実家に戻るために教員となった。
新潟県の教員になったのは、同年齢の人と比べて12年遅れだったために給与面では「冷遇」そのものだった。それまでの経験年数を

他県だからという狭量な仕組みで2/3に切り下げられるという屈辱でもあった。それでも高教組の役員をしたことで、権利獲得や待遇改善の運動、平和教育の取り組みの一翼を担うことができた。

役員をしたこともあって、退職者の会の人とは一定の交流があったが、いざ退職してみると、周りの人が全員年上の「退職者の会」は全く馴染めなかった。誰でもそうだと思うが、退職までの職場環境が「年上も年下もいる」状態だったからである。

それでも退職の会に加入した2011年の秋、地域探訪「佐渡金山と杉巨木を訪ねる旅」に参加、2013年には乞われて退職者の会の事務局に入ることになった。

退職後の10年は退職者の会の事務局での10年であった。現職の時と違い、会員の繋がりと親睦、「できること」を協力してすることが基本姿勢とも言える会は、それなりに楽しく仕事できた。特に2017年度には、会費管理、会員管理、通信編集などの業務を、それまでの手作業から全て電子化する作業に当たったが、自分の思

い通りにできたことで、非常にやりがいがあった。「退職者の会」は新高教で信頼できる仲間だった者たちが集う場なのだから、引き続き、色々なことに協力し合い、どこよりも寛容で、楽しくやっていける場に行きたい。

また、この間8年間にわたりネットワークとリモートでIT関連の仕事をしてきた。私にとっては得がたい経験であった。そして、「お客様」相手の対応がきちんとできたことも収穫であった。

プライベートでは、柏崎で一人暮らしだった母を長男としてどう面倒をみていくか、孫までの家族をこれからどう支えていくか、ということが今までもこれからも大きな課題である。

今回の通信は、活動中止中の発行ということで、会員の皆さんの協力が頼みの綱でした。このことを理解していただき、寄稿していただいた皆さんに感謝します。

従来から友誼団体には通信を配付してきました。日退教にも郵送してきましたが、今回、日退教本部事務局次長の松淵さんから「感想」が送られてきましたので以下に掲載します。

新高退通信137号を 読んで



日退教 松淵 昂

そろそろ涼しくなるだろうか、と思っておりますが、今日もちょっと外に出ただけで、汗が出る天候です。新潟も猛暑日が続き大変だったようですね。

さて、いつも新高退通信を届けてくださいます。ありがとうございます。毎回は、全部読まないのですが(各県・高退から届くものからです)、137号は大変良い内容なので、全部読みました。特に、木村会長の文章は、内容が濃く読みごたえがありました。「決戦教育措置要綱」や「動員解除二関スル件」の内容は、初めて知りましたし、学徒勤労動員総数なども、大変参考になりました。私は、今回の安倍晋三が「一斉休校」要請を出した時、権限を越え

た要請であると同時に、お山の大将になりたい晋三が、全国の児童・生徒・学生を鶴の一声で思うように動かしたい為にやったのだ、と思いました。そして、退陣しなければ、自衛隊に対して出動命令を出し、有頂天になるつもりだったのではないかと思います。

4ページに今年の通常国会の挨拶が記載されていますが、一昨年にも適当なことを言っているのです。一昨年は、明治から150年ということ、薩長政権の正統性を強調するために、薩長だけではなく賊軍会津出身の山川健次郎を東京帝国大学の総長にした、と嘯びいたのです。

実際は、当時の東大教授たちが、山川健次郎なら会津出身で薩長と白虎隊士として戦い、政府の言いなりにならない人間で信頼できるということ、で総長に推薦されたのです。

山川健次郎は1931(昭和6)年に亡くなりましたが、弔辞を読んだのは当時の東大総長小野塚喜平次です。なんと、長岡出身の総長だったのです。

河合継之助が、負傷しながらも会津へ行こうとしたこと(多分、長岡城を一時奪還したけれども、

落城したことの報告だと思いが)と重なります。

最後に、石川啄木のこと記載されています。私は、岩手出身ですが、岩手では、断然宮沢賢治に軍配が上がります。私の知っている人は広島県出身で、やはり宮沢賢治にあこがれて岩手の教員になりました。こういう人が結構いるのです。でも、宮沢賢治には、朝鮮の植民地化や日本政府の軍国主義の行動などに対する批判はありません。ただ、啄木は、私生活が褒められたものではなく、子どもなどにはあまり人気がありません。新会員からの便りも面白かったです。

私は、岩手の小学校に26年しか勤務したことがなく、高教組との交流も、教育を語る会(支部や県単位)の時、高教組の担当者と交流するぐらいでした。ところが、日退教で10年が過ぎましたが、現在事務局の4名は、私だけが義務制で他の3人は高教組出身です。その意味では、義務制にない良さを感じています。9人について書きたいのですが、何人かだけについて書きます。

本間正人さん/大きな病気を3回

も経験し、退職後、庭師の資格を取ったとは驚きです。

磯部浩さん/この人もすごいですね。果樹園の復旧、漁船購入、300名山への挑戦、しかも佐渡ですから、山に行くにも時間が倍もかかるのではないのでしょうか。都高退の会員に、夫婦で200名山を達成した人がいます。その夫婦は、写真と山行日誌の本を出版しました。

栗川治さん/この人もすごいですね。失明して、退職後に、立命館大学の社会人入学、妻を亡くしたので、夫を亡くした女性と京都に部屋を借り、恋愛中とは。羨ましい限りです。

滝沢貞親さん/冒頭、島修身さんの名前が出てきたので、びっくり。私は、大体、島さんと同じ頃、日教組の中執でした。年に1回ぐらいは日退教に顔を出してくれませんが、今年は無理ですね。来年4月の十日町市議会議員選挙にはぜひ当選してほしいものです。

いずれ、どなたも新潟高教組の仲間との絆を強調していると思えました。

それだけ、団結力が強いのだと思います。今後とも、退職者の会のご活躍を期待しています。

最新スマホを低料金で使い

内山正知 (10) 新潟支部

今では多くの会員が携帯電話やスマートフォンを使っているに違いない。2019年の通信No.135で「電力会社を変えてみた」報告をしたが、今回は低料金で使うスマホの楽しみ方を報告する。

携帯電話を使い始めたのは2001年の2つ折り携帯のFOMAシリーズから。この頃は携帯電話の本体無料が当たり前の時代ということもあって頻繁に機種変更していた。(写真は保管中の携帯の一部)

2009年に日本初の「Android」OSを搭載したスマートフォンが発売されると同時にドコモが提供したHT03Aに飛びついた。iPhoneに乗り換えたのは第4世代のiPhone4から。この頃から、日本ではiPhone人気がどんどん高まってきた。



左から4台がFOMAの機種、右の2台がANDROID機



iPhoneの各機種

今のiPhone11Proに代えたのは2019年の11月、これまでは大手キャリアと契約してきたのだが、「えいつ」とau系列の格安接続業者UQモバイルに変更した。理由は最新機種(HUAWEI)本体までついて、2年間の料金が月額千円程度だったから

さすがに2年目からは2千円程度になったが、それでも『4年間の月平均が1500円程度』と考えれば今までの月額1万円程度と比較して格安だ。

ただ、安いからには利用上のこつがある。だが、慣れればそれが日常になってくる。つまり、「何回でも1回5分以内は無料」(1回10分以内無料の業者もあり)の通話を使いこなすことと、WiFiを使えないところでは必要以上にネット接続をしないことだ。

私がスマホを使い続けるのは、アプリの便利さと楽しさがたまらないからだ。私なりの使い方を紹介する。

1. コミュニケーション機能

電話、LINE電話、FACE TIMEなどの通話機能、各種メール、LINE、メッセージ、連絡先などの通信機能が基本だが、ミーティングアプリのZOOMも使えるアプリだ。FACEBOOK、ツイッターはたまにのぞく程度。

2. 毎日使うアプリ

特に利用頻度が高いのはカメラ、スケジューラー、リマインダー、ダイアリー、ブラウザなど。

スマホのカメラ機能は素晴らしく、スナップ撮影ならばより手軽なコンデジだ。毎日の行動予定・通知・記録アプリはパソコンとデータ共有ができることもあって、

アプリ機能の最も有用なものだ。また、テレビ・マスコミが報じない情報を得るためにブラウザは必須。

3. 仕事・趣味で使うアプリ

通信原稿のテキスト化や編集・保存等で有用なのがOCR、音声テキスト変換、画像編集、クラウドなど、旅費計算や会員管理などに利用するのがOFFICE、乗り換え案内、地図アプリなど、その他にタイマー、音楽再生、QRコードリーダー、電子図書なども。

4. ショッピング

食料品以外の買い物はほとんどアマゾン、楽天などのネット注文だ。品揃えが豊富な上、価格比較ができ、早ければ翌日に届くから商品の見極めさえできれば便利の上ない。また、メルカリ、ヤフオクなどのフリマ・オークションサイトなどは、新品で買う必要がないものを入力したり、「断捨離」で不要となったものの処分最適だ。

5. その他

インストールするアプリを選択するためのアプリ、金融機関の通帳アプリ、スマホ決済アプリ、防災アプリ、天気予報、公園検索などの生活アプリも便利だ。

分校・定時制時代(リレートーク⑦)

「定時制が私の原点」

本間佑一(02) 新潟支部

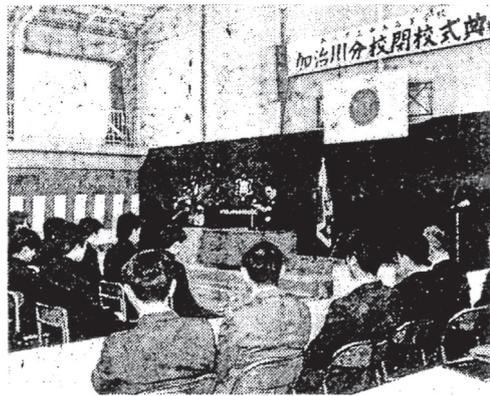


私は1965年から75年まで2つの定時制分校に勤務しました。与板高校脇野町分校(夜間)に2年間、中条高校加治川分校(昼間)に8年間でした。両校とも廃校になっています。両校での10年は私にとって教員としての自覚、考え方の原点となっています。ここでは加治川分校について記してみます。1948年に開校し当初は農業科・被服科の課程を設置、開校し、やがて普通科1学級となりましたが、生徒は農家の子女がほとんどで地域の期待を受けて数々の前途有為の若者を輩出し、とても勢いのある学校であると聞きました。

私が赴任した時は木造2階建の校舎と独立した柔剣道場、そして隣の金塚小学校と共用のグラウンド。校舎のまわりは田圃に囲まれた学校でした。私は67年に赴任し、1年生44名を受持ちそのまま4年生になるまで持ち上がりにな

りました。1年次の67年8月28日昼間からバケツをひっくり返すような雨が翌日まで降り止まず、大洪水(のちに「羽越洪水」と命名)をもたらし中条全域・俵橋・竹島などに水没家屋が点在し、多くの家が床上浸水で動きがとれない惨憺たるものでした。4年生の女生徒は関沢から国道7号線まで3百メートル余を放牧牛と一緒に濁流に呑みこまれ、流されて、幸いにも助けられ命をつなぐことができました。洪水の数日後、私は被災した生徒宅を訪ね廻りましたが交通手段も遮断されていたこともあってド口道を自転車で行くのかなり難儀しました。幸いなことに水没家屋の被害は全生徒にはありませんでした。

冷や汗もの。また生徒たちが大挙して新潟市の我が家に押しかけてきた時には驚いてしまいました。こんなこともありました。私が宿直のとき(この時点では宿直闘争には至っていません)に上級生の4年生の男子数名が夕刻になつてから野ウサギをぶら下げて訪ねて来ました。罫にかかったウサギの毛をむしり、内蔵を取り出し、しまいには調理室を使って慣れた手つきで料理をし、「夕飯のおかず」とサツサと後始末をして帰りました。私は生まれて初めてウサギの肉を食べました。野兎病を恐れながら。家庭科の先生には内緒にしていました。



39年の歴史に幕を閉じた
加治川分校の閉校式
毎日新聞1987年3月7日

3年生になると北海道修学旅行がありました。黒川分校(昼間制)、中心校(中条高校の夜間)と一緒に旅でした。我がクラスはW君が同級クラスのSさんとささいなこと喧嘩となり、W君が宿を飛び出して行方不明になりました。結局、新潟に帰ろうとして、宿からはかなり遠い函館駅にいるのを見つけて連れ帰り、私が強くW君をたしなめると泣きじゃくりながら「先生、オレと一緒に風呂に入ろう。」訳が分かりません。その時は、4年生の時、K君が話している中で定時制は素晴らしい、教育の原点だと私が言ったあとでK君が言いました。「じゃあ先生の子供を定時制に入れるかね。」私は「本人が望むならね」と中途半端に話しを切ってしまいました。その件はずっと頭の隅から離れませんでした。

学校の教員は全部で7名。教員として日の浅い私には解らないことだらけです。先輩の先生方はそんな私を親や兄のように接してくださいました。とりわけ最長老のA先生からは沢山の影響を受けました。反骨魂とか信念といったものをつぶさに語ってくださったように思います。朝日歌壇や短歌の雑誌に掲載されました。おだてられて私も真似をして新聞にた

びたび投稿するようになりました。また、ある先生は非常時にはいつでも籠城できるようにと重いカバンを毎日持ち歩いているのは極めて普通の行為だと笑いながら言い放ちました。

その頃を懐かしくもほろ苦く思い出します。(協野町分校は1970年3月、加治川分校は1987年3月に閉校)

※告知等

朝日新聞「声」欄に新高退会員と関係者の投稿が掲載されましたので紹介します。

佐藤重男さんは上越支部事務局長、佐藤早苗さんは元事務局次長佐藤正さんのお連れ合いです。

新聞投稿は公開ということので転載させて頂きました。(タイトル、職名等も新聞掲載通り)

「戦争」発言の教育長 責任は重大

無職 佐藤重男(新潟県71)

かつてある国会議員が、北方領土を取り戻す方法として「戦争しないと、どうしようもなくなかないですか」と発言したことに驚いた。だが今回の遠藤浩・新潟県燕市教

育長の「コロナ禍を解消する方法は、どこかで大きな戦争が発生することではないだろうか。きつと経済が上向ききつかけになるのではないか」といった発言にも驚きあきれ、背筋が凍った。

後に「戦争は人間の尊厳を損なう行為」「私は戦争に強く反対する立場だ」などと釈明したが全く理解できない。8月は「原爆の日」「敗戦の日」と不戦の誓いを新たにしたのはずなのに、この時期に、しかも教育長の公の場での発言だけに責任はより重大かつ深刻で、辞任は当然だ。

加えて、この教育長は昨年まで県立高校長だったという。であるなら、長年、高校教育に携わり多くの生徒を教えてきたはずだ。ど

のような授業であれ、そこには教員の人間性・感性・思想性が何かしら影響する。

蛇足ながら、氏には辞任で終わりとせず、「戦争に強く反対する立場」が真意であるならば、元教育者の誇りにかけて、目に見える形で戦争反対を訴える活動に取り組み、汚名返上を図るようお願いしたい。

感謝の言葉を書き残し逝った夫

無職 佐藤早苗(新潟県)

「早苗さん、ありがとうございます。10回以上続けて書いてあったり、「ありがとう早苗さん」が赤鉛筆で記されていたり、「妻に心に残るお返しをしたい」とも。

『活動日誌』・点描

型コロナウイルスのため会うことさえできなかった。夫が心配で毎日病院へ行きたくてしかたなかった。夫も病気の不安や苦しさをたくさんメモに残していたが、同じくらいの量の感謝の言葉や、私がそばにいるだけでどんなに心が安らぎ幸せを感じているかも書いてあり、涙があふれた。

私への感謝の気持ちを残してくれたことが、何にも代えがたいお返しですよ。

戦争期待するような内容に非難と批判

遠藤教育長 真意が伝わらなかつた

問題視は最終盤部分
クリミア問題まで持ち出して
あなたも戦争を期待する内容
『戦争を是憲法にも反

三條新聞 事件を伝える

1カ月前に他界した夫のメモだ。夫は5年半の闘病の間、12回の入院を繰り返した。付き添っていた私がつづった後、つづいて感謝をつづっていた。11回目までの入院は毎日付き添えたが、12回目は新

■新高教・希望奨学生選考委員会43回(来年度で終了予定)(8月7日) 木村会長出席、今回はコロナ別枠で全分会に給付1名追加
■事務局会議(8月26日)『通信137』編集会議、再校と発送準備
■『通信137』発送(9月2日) 終了後事務局会議、『通信138』の構成検討、活動停止の影響大
■憲法学習会(9月11日)「COP25@新潟」講師・伊与田昌慶さん(気候ネットワーク主任研究員)
■ポストコロナの社会に向けて政治を変えよう! 未来を選ぼう! 市民と野党の大集会



(9月18日)安倍辞任表明で「戦争法強行採決から5年」安倍政権の退陣を求める」12名参加 ■県

退職者連合第1回幹事会(9月28日) 木村会長出席 ■事務局会議

(9月30日)『通信138』編集会議 ■新潟水俣病共闘会議結成

50年事業(10月3日)「ユージン・スミスとともに見た水俣」『水俣』は正念場 教訓を活かして今こそ行動を」講師/アイリン・美緒子・スミスさん ■「現

退交流会の開催について」文書を支部宛発送(10月6日) 新型コロナウイルス禍の折、現職と相談して柔軟な対応も要請 ■教育をよく

くする県民会議総会(10月7日) 2020年度活動方針決定、菅政権よる日本学術会議への政治介入に反対する総会アピール採択 ■

事務局会議(10月13日) 柏崎市長選に立候補の近藤正道さん(新高教顧問弁護士)の推薦決定、菅首相による日本学術会議新会員6人の任命拒否への「抗議」を総理大臣・自民党総裁の菅義偉宛てに送

付 ■10・21国際反戦デー(10月21日) 今年には新潟駅前街頭演説とプラカード等でのアピール

(石野)

編集☆集☆後☆記

講演「待ったなし！気候危機」を聞く

コロナ禍に石野事務局長が表題の講演と新潟水俣病共闘会議結成50年行事記念講演の「ユージン・スミスとともに見た水俣」(アイリン・美緒子・スミス)を聞いてきた。

報告はCOP25の様子と、いかにひとり日本が後ろを向いているかを指摘するもの。今、日本は世界からターゲットになっているとも言える。

新高退通信137号を読んで

日退教の事務局次長の松淵さんは今回掲載した通信を読んでの感想の他、新潟県に関わるエッセーを送ってくれた。次号から3回に分けて掲載予定。

最新スマホを低料金で使う

つまらない内容で恐縮だが、活動停止で原稿に変化がないこと、前に「電力会社を変えた」話を紹介したこと、国会では『独裁者』とも呼ばれる菅首相が、これが首相になった途端にまず打ち出す政策か、民間企業の経営に介入するのかと耳を疑う「携帯電話料金値

下げ」を言い出していることなどもあつて掲載した。

分校・定時制時代

このシリーズの原稿を読ませてもらうと、私の子供時代より少し前の「昭和」を感じるものがあつて興味深い。東京から柏崎の山裾に居を構えた父が、初め食べるものがなくて、雪の山中に針金で毘を仕掛けてウサギを捕って食べたと言っていたことを思い出す。

告知等

それまで県立高校長だった燕市の遠藤浩教育長の発言には耳を疑う。資質以前の問題で、子供でも分かる「何があつても戦争はダメ！」との意識がないのか。加えて、自分の立場・地位が認識できない大バカ者なのか。

訃報にもある佐藤正さんは、私の前に通信編集の責任者だった。まじめでまっすぐな人で、話が横道にそれると注意されたことを思い出す。

柏崎市長選挙

11月8日告示、15日投開票で柏崎市長選挙が実施された。生まれ故郷で母が住む柏崎市の市長選挙であり、近藤正道さんは柏崎高校の先輩、新高教の顧問弁護士、東電柏崎刈羽原発運転差止訴訟弁護

団ということ、原発にとどめを刺す市長誕生のために、老体にむち打ち何回か選挙のお手伝いに赴いた。

柏崎市民は原発問題に対して辟易しているのだろうか、残念ながら近藤市長の誕生を見ることができなかつた。しかし、私たちは今後とも「柏崎原発運転差止訴訟」などを通じて廃炉の取り組みを強める必要がある。

(内山)

ご冥福を
お祈りします

(括弧内は現職退職年)

2019年

渡辺 弘 さん (91)

(新潟支部) 4・20

2020年

佐藤 正 さん (04)

(新潟支部) 8・6

野村隆一郎 さん (89)

(新潟支部) 9 月

丸山 勉 さん (95)

(新潟支部) 9・2

椎 賢二 さん (97)

(佐渡支部) 10・21